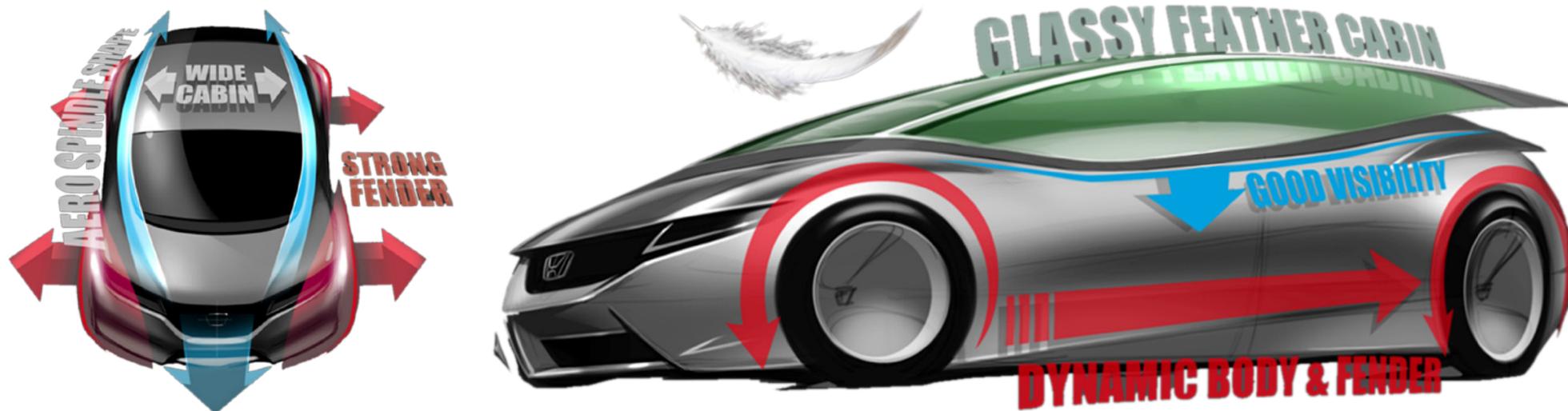


オーナーの所有する喜びを満たす、 セダンライクな低全高のスタイリッシュデザイン。

エクステリアデザインのテーマは、「Light&Solid」。セダンライクな低全高を活かしながら、フェザーのように軽快なキャビンをしっかりとした足回りが支えているようなフォルムをめざしました。そのために、軽快・爽快と力強さ・堅剛さという相反する要素の融合を追求し、線や面の使い方、造形やディテールの工夫などにより、理想のフォルムをカタチにしました。

Light & Solid



グッドスタンスの演出

フロントは、ピラーからフード先端までつながる伸びやかなキャビン造形とし、フェンダーの張り出しの隆起を強調。サイドビューでは、フードのキャラクターラインまでがフェンダーと感じられるように演出。リアは上部を絞り込みながら、駆け上がるようなウィンドウ形状とすることで、フェンダーが力強く隆起して見えるようにしています。

前進感のある塊の演出

ドアパネルの張り出しのピークを低く設定。前後の大径タイヤとボディの塊を低い位置で一直線に見えるようにすることで、前後方向のベクトルを力強く感じさせる前進感を演出。サイドのキャラクターラインに頼らない立体構成によって、ボディの塊と力強いフェンダーの一体感を表現しました。

軽快感の演出

ウィンドウの前後を絞り込むことでスピンドル形状とし、室内空間の豊かさを表現。また、ベルトラインを大胆に下げることで、ガラスエリアを拡大。極細化したピラーと相まって軽快な印象を演出しています。

低全高感の強調

ルーフは、全高の高低を印象づける部分といえます。しかし、太陽光や照明の反射で存在感が薄くなることがあります。そこでジェイドでは、昼夜とも明確に認識でき、周囲の人やモノとも比較しやすいベルトラインを下げることで、低い全高をさらに印象づける視覚的効果を狙っています。